カバー・表紙デザイン
たむら　しげる

4

アタゴオル玉手箱

ますむら ひろし

KAISEI-SHA

MOE
コミックス

アタゴオル玉手箱

4

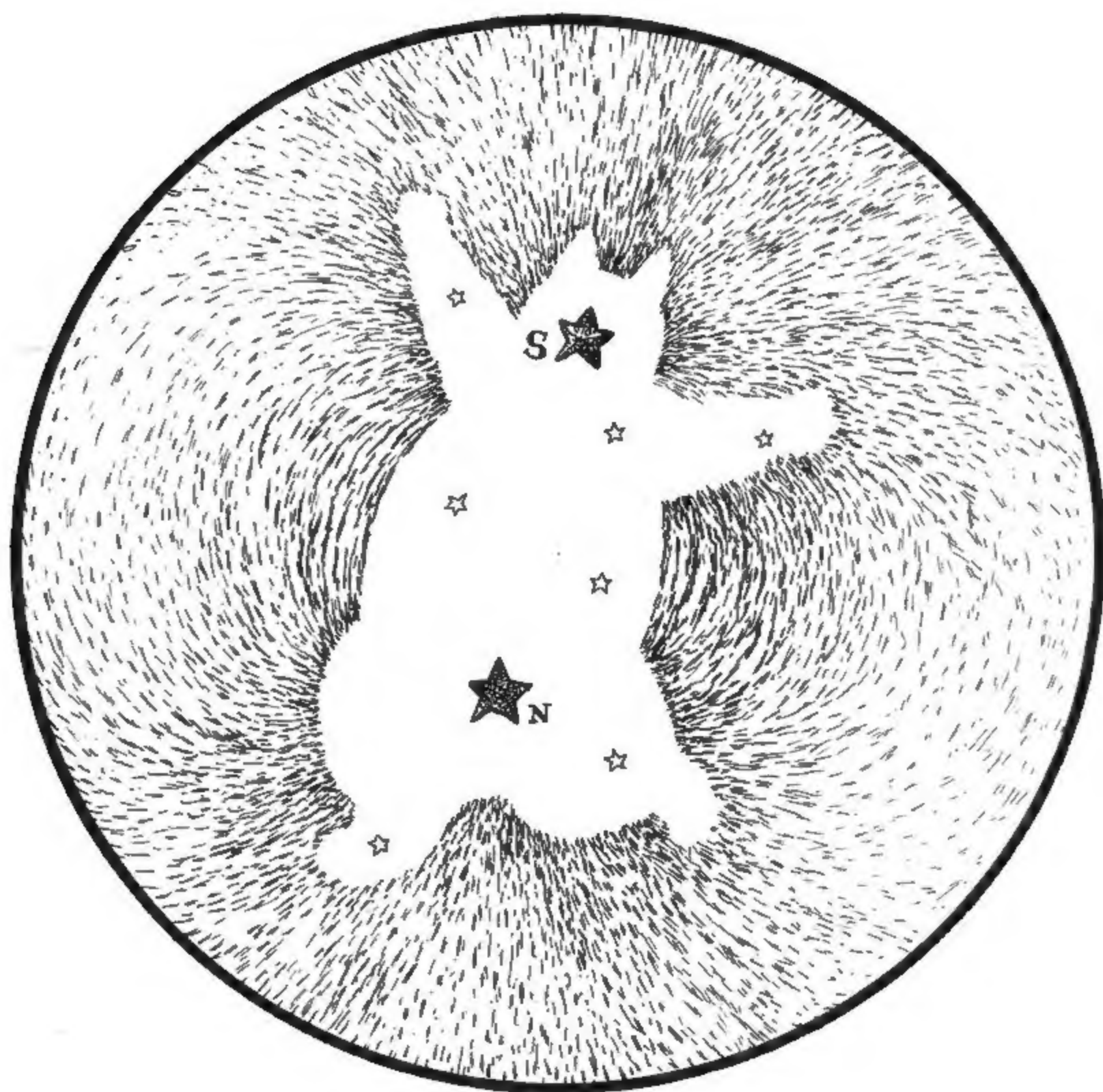
ますむら ひろし

偕成社

宙ずりの夢夜ひきずる恵比寿船

水晶の招きにそそぐ水銀河

H. Masumura

ATAGOUL

● 玉手箱メニュウ

ももんぐあ

パチ

すごいガラクタだねえ

この家ごともやした方が早いんじゃないか……

こんなこわれたオモチャ大切にしまっておくからだよ

うへへ

お前は家の中そうじしたことないのかい

ないぞーっ
ヒデ丸
そのゴミ箱
もってきて
はい
あらら……
あふれてる
おろ……
みなさん
大変です
大変ですようっ
どうした
ヒデ丸
これっ
あっ

タクマからの手紙だ

えっ

タクマ……?

タクマってどんな熊だ?

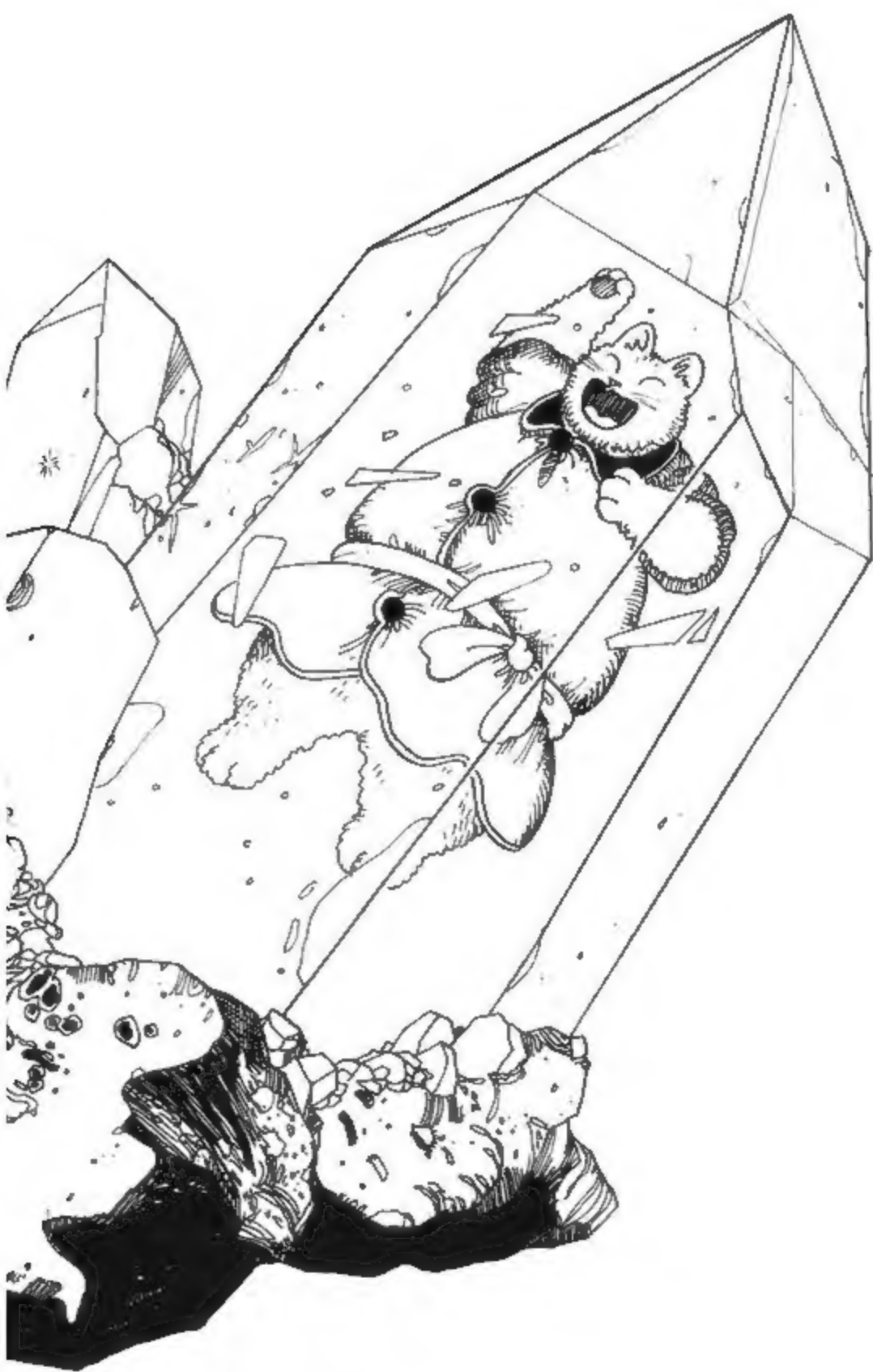
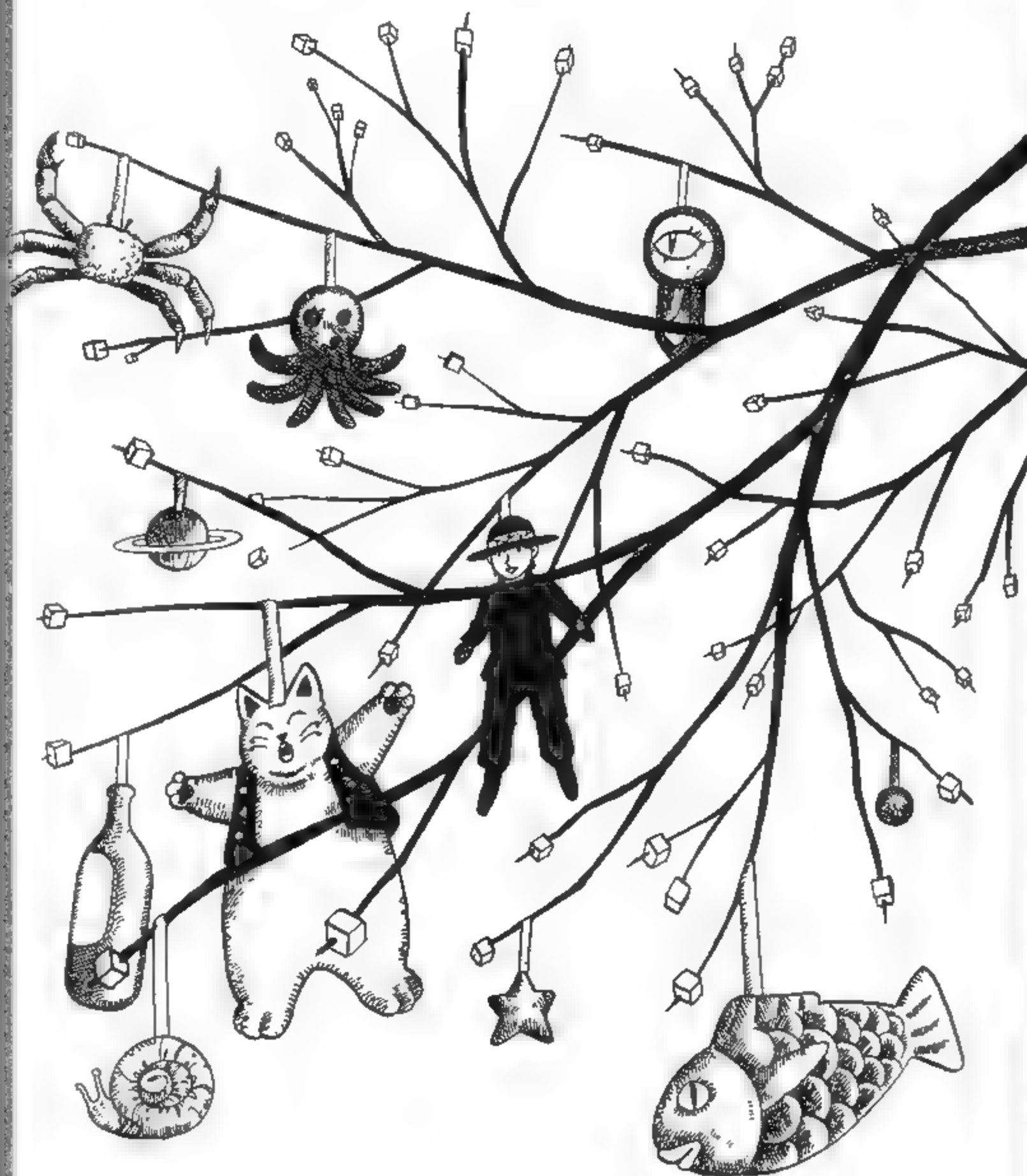
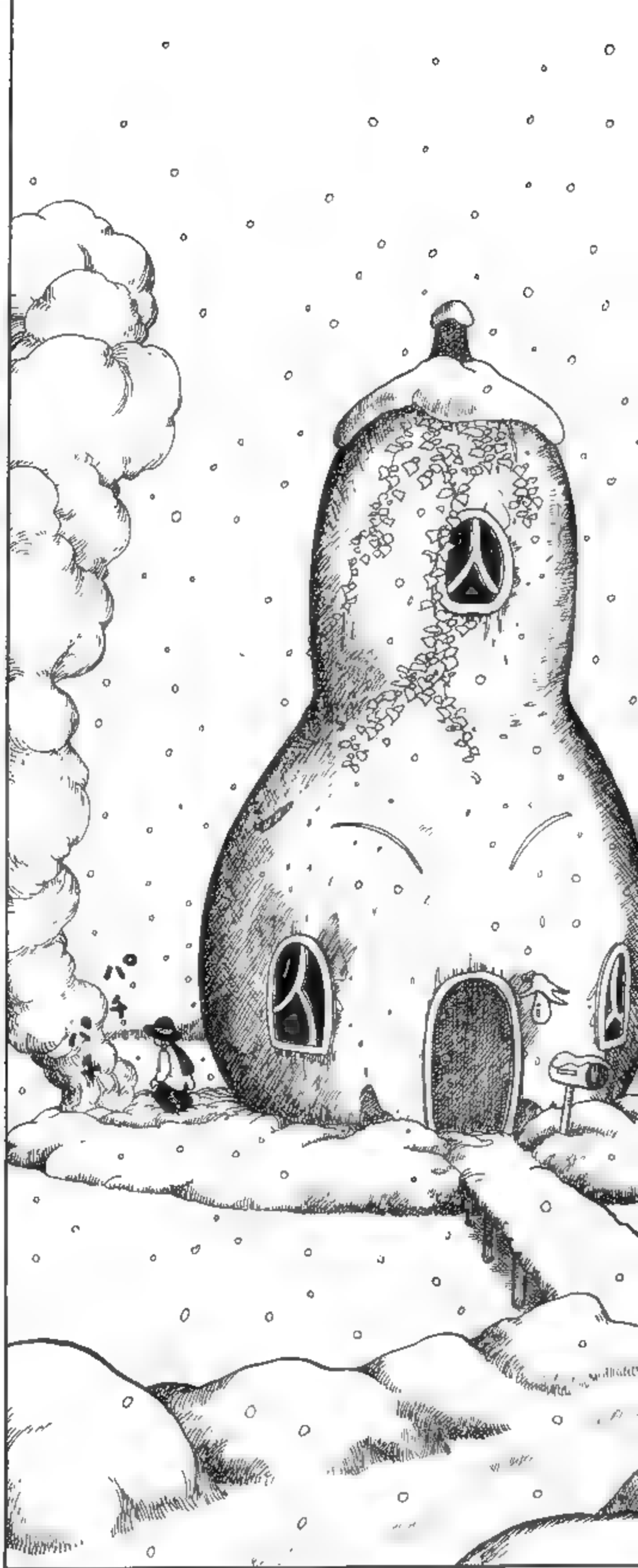
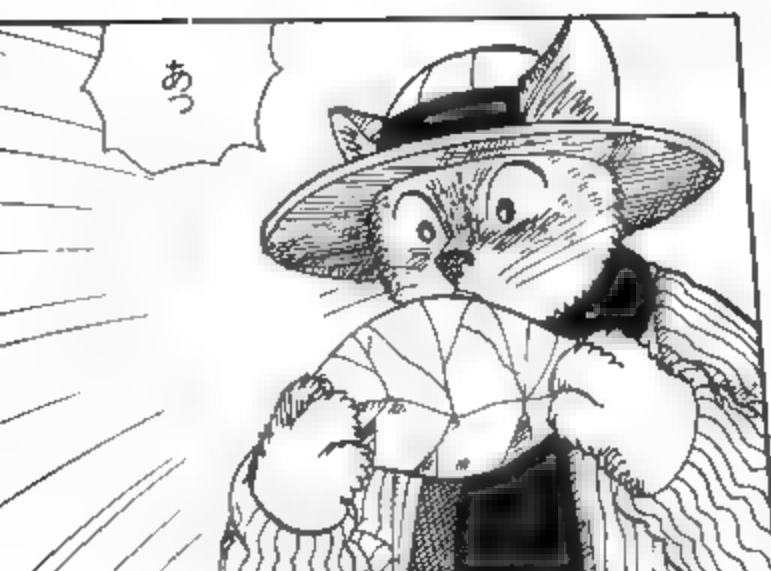
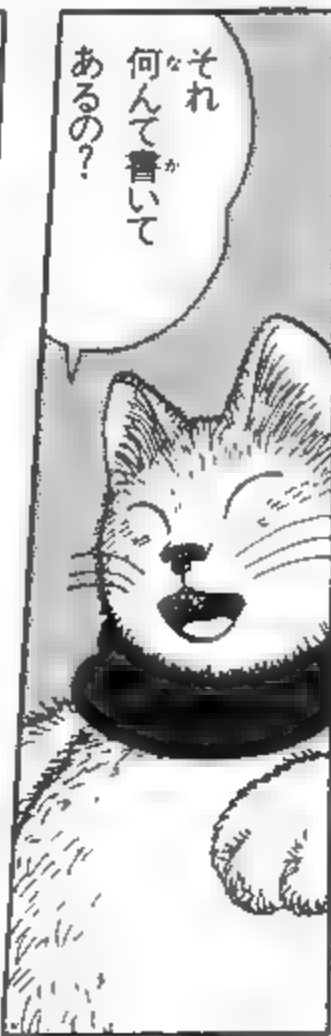
お前タクマをわすれたのか

なんて冷たい男だ

これどうしたんだよ

見たことない形してっから
ゴミだと思って
モシャモシャ
ポイしたのよねっ

それ何んて書いてあるの?

「やあヒデヨシ
元気で尾っぽふってるか
オレも椿も元気だが
こっちでは大変なことが
起こっている」

「どうしても
お前の助けが
ほしいのだ」

「ぜひテンプラや
パンツをさそって
早く来てくれ
たのむぞヒデヨシ
タクマ
霧月23日」

霧月ったら
もう3ケ月も
前だよ

しょうがねーなあ

手紙はすてるし
タクマのことは
わすれるし

タクマも
オレあてに
出せばいいのに
……

しかし、
ヒデヨシ君に
たのみとは
何んなんでしょう

フーム……

とにかく
いそいで行こう

よし

オレは
行かない
わよっ

行かないって！
お前、友だちが
たのんできたのに
行かないのか

熊なんか見に
行かないわよ

いーかヒデヨシ
よく聞いてろよ

「追伸」

「オレは毎日
銀クジラのほし肉を
たっぷり食ってるぜ」

なにっ

ぶっ

行くぞ

オレが
行くぞっ

さすがタクマ
ヒデヨシの性格を
よく知ってるなあ

しかし手紙は3ケ月も前に
出されたものだし……
リンゴ丸で行くにしても
1ケ月はかかるなあ

鳥霧山を
越えて行ければ
いいのだけど

冬の鳥霧越えは
まず不可能だぜ

オレは行く行く
鳥霧越えてっ

いい考えがあるから……
夕方まで準備して
私んとこに集まって

いい考え？

銀クジラっ
パクパクパクン

お前、
夜逃げみたいだなあ

その日の夕方

ギンギン

しかし、ツキミ姫の
いい考えって
どうするつもり
なんだろう

あの子は
ふしぎな子
だからなあ

ありっ

オーイ
テマリちゃーん

ぐあっ
テマリも
行くのかっ

あとは何よっ
ヒデヨシも行くのーっ
そーよクジラ食いに
しかし……カブト虫の家とは
ツキミ姫もしぶいよなあ……
ふう
ふう
ちわーっ
いらっしゃい
あれ唐あげさん
粉雪亭ごと引っ越してきたんです
引っ越してきた!

どういうことですか
この家で海に行くんですよ
えっ
さあ全員そろったね
オーウ
それじゃあ出発だ
ツキミ姫この家で出発って?
そう!
だって少しでもいそぐんでしょう
ガッ
おっ
ぐらっ
オレ、わすれものあるから
ちょっととってくるわ
カチャ
ヒデヨシ君あぶない

キャン

うあ

飛んでる、家が
飛んでるわよーっ

すげえやっ

これなら
あの山も
越えられる

さすが
ツキミ姫

大海原が
待っているう

唄なんか
歌ってないで
早くのぼれっ

2階に各自の部屋を作りましたから使って下さい

うほ ありがとさん

何んですかあれは?

この茎は、この家をささえてる柱で・・・

大変大事なものですからキズつけたり、さわったりしないで下さいね

家の神経が集まったような所かな

うん、そうなんだ

ヒデヨシ、ここでツメをとぐんじゃないよ

ツメならちゃんとかじって切ってあるのよ

しかし、迷路のような家ですねえ

そうよ、自分の部屋覚えてないとまいごになるからね

あらん

それブドウ酒だよ、飲んでもいいぞ

ガオッ

ういーっ

コレッ もう寝るぞ

自分の部屋覚えてっか?

だいじょうぶ…… あと1杯飲んだら寝るからにゃーっ

明日もあるから早く寝にゃーっ

ごろごろ

明け方近く

カラ

カラ

……あれ……

どこだっけ…… オレの部屋……

んっ

この柱にさわるなとか言ってたな……
さわるなっ……つう事は
オレにさわってくれと言ってるようなものなのさっ
では……さっそく
キエーーッ
んっ……
うあっ
みなさん起きて下さいっ

これはいったいっ
家中毛だらけなんです
うーっ
毛だらけ
このニオイ
ヒデヨシの毛のニオイだぜ
！
たぶんこっちよ
うっ
頭が柱にめり込んでる
あれ程、さわるなと言ったのに……
言ってきくような奴じゃないからなあ

ツキミ姫・・・これはいったい
この家とヒデヨシ君が同化したのよ
ヒデヨシと同化!?
そう・・・
要するに私たちがヒデヨシ君の体内にいるような感じなのよ
考えただけでも恐しい・・・
とにかく、頭をひっこぬきましょう
よろしいっ
まったく、この先かおもいやらせるぜ
びくともしない
テンプラ君見て下さいっ
どうしたヒデ丸
まるで・・・・・・
まるでこの家

でっかいモモンガ
みたいですよ

ハリガネ草の午後

ホーッ
まいった…
まいったのう
まいったじゃ
ないわよ
首ぬいたのに
もとに
もどんないなあ
みたまえ
諸君
この
クルミ団子
そっ

にゅ～っ

うっ

なんだ
これはっ

あのむらさき色の部分が
ヒデヨシ君に
変化してるんだよ

ここがもとにもどるまで
当分の間は
この家を動かすのは、
ヒデヨシ君の気分なんだ

うーっ

オレの気分は
いつもいいのよ

変な方角に
飛んでるんじゃ
ないかしら…

それが私も気になって
……でもこの方向計
見てごらん

おっ しっかり
銀しぶき海に向ってるぞ

ホントだ

この家も銀クジラ食いたがっているのねえ
しみじみ
よーし諸君
これからはオレを船長と呼びたまえ
毛だらけ船長
あっ
何か浮かんでいますよーっ
オーイ助けてくれろ
助けてくれろっ
船長、早く助けようっ
甘いっ
甘い？
そーじゃよオレたちは、銀クジラ食いにいそいでいるのだ
すておけいっ

ぐいっ

おっ

もったいないなあ……
助けてあげれば
お礼に
紅マグロ一匹は
もらえるのに……

ブッ

テマリちゃん
あいつのあつかい方
覚えたな

すべてが
食うことなのね

おい紅マグロ
助けに来たぞ

はっ？

いやーっあぶない所を
ありがとなっし

なんの
なんの
紅マグロ

わしゃね
波待ち岬の
パリモンといって

植物の種を
研究してる
者じゃす

波待ち岬から

あい

種を撒いてるうち
空気船の釜が
こわれちまって
流されたんじゃす

種って……
これですか

んだす

ハッカみたいな
ニオイが
するねえ

ハリガネ草の
種じゃすよ

アタゴオルじゃ
聞いたことのない
名だなねっ

波待ち岬あたりにしか
咲いていない草だもな

波待ち岬なら
私たちの向っている
方角ですよ

このまま
乗って
行きましょう

それは
ありがたい

もちろん
紅マグロ

ふう

ハリガネ草の午後

ええ

明日が、予定日なんで
あちこちに種を
まいていたんじゃす

この種……
ふしぎな感じ
するね

おや……
わかり
ますかい

なんとなく
…気配が…

ウッフフッ

岬に着いたら
たんとごらんに
入れますじゃい

ズザーッ

ふう

あっ先生

いやーっ心配しましたじゃい

この方たちに助けてもらったんじゃす

海辺の諸君
私がヒデヨシ船長だ

うっ
おい ヒデコシ どうしたんだ
あれ このニオイ
やっぱり
紅マグロだ
これは
種の肥料じゃよ

おっ

フラッ

コラッ しっかりしろ

ううっ

オレも食いてえよー

みなさんには生のいい紅マグロや海の幸、たっぷりごちそうしますじゃい

ありがとありがと先生様

ペロペロ

うっ

見ちゃおれん…

みなさん、どうぞゆっくりして明日の「ハノガネ草の午後」に出てけろじゃい

どうする？
私はそれに出たいな
海まで出ればもう少しだしな
私は出ますぞっ
それじゃあよろこんで
よろこぶよろこぶ
しかしずいぶん見たことのない植物がありますね
オッそうだ
さっそくごらんにいれますじゃい
ホフ
これがハリガネ草じゃす
へーっ
三日月型の葉っぱですね
昔はほとんど絶滅していたんじゃすが
わしのじいさんが種を改良してふやしてきたんじゃい

プチッ
いいですかい
この葉を見てて下さいよ
ゆれてる……
でも……想念の力じゃ…ないな
ふう
かつてはもっとゆれた時もあったんじゃがねえ…
みなさんも葉をとって、手に持ってけろじゃい

ブチッ

こうね

パタパタ

オーッ

こんなに
みごとに
ゆれるのを
見るのは

ひさしぶりですじゃ

まあまあね

アラッ

私のも
ゆれてますよ

ぜんぜん…
ゆれないぞ

これは明日の午後が楽しみだなっ
それじゃあわしゃ仕事をかたずけますんで
ちょっくら海でも見ててもらうかな
イエーッ
わおう銀しぶき
おかしな葉っぱだねえ
どうしてゆれないんだろう
持ち方が悪いんじゃないでしょうか
そんなはずないと思うんだけどなあ…
。。
こんなに風が吹いているのに風にはゆれないんだ…

お日様沈むのよっ
沈んじゃうのよーっ
ふう…
陽が しみてくるな…
あれ？

ゆれてるよ…

ホントだ

ゆれてる

どうしたんだろう
・急に・・

お日様が
沈んじゃうわぁ

私が・あの赤い陽とともに
海に沈んでいくのだ…

ほう

ハリガネ草が

ええ

んめよっ

夕陽をながめてたら
急にゆれだしたんです

いったい
どうしてなんで
しょうねっ

あの草は持った者の心の波でゆれるんです
心の波
そうじゃす
心の波は子供の時代はよくゆれますんじゃが
年をとるにつれてゆれなくなるんじゃす
あの夕陽を見ているうちにオレの心がゆれたのか・
そーかパンツは爺さんみたいな奴だから
心が石みたいにかたまってるんだねえ
冷静な奴と言ってくれよな

テンプラーッ
これうめーんだよっ
んっ
あれっそっちの皿
みんな食ったのか
そうよっ
好きなのよっ
雪星サザエ
好きなのよ
パンツくんもゆれたとなると
明日の午後は
楽しみですなあ
先生、
ゴタワンさんが
お見えになりました
えっ
よわったなあ…
毎年、今頃になると
…
なんだ
借金とりか
オレ借金とりを
ごまかすのは
うまいのよーっ
借金とりじゃ
ないんですか…

パリモン先生
たのんますじゃい

これ、オレの気持ちですじゃい

オアッ

雪星サザエ

そんなこと、されても わしにはなんにも できないんですじゃ

いやいや

先生はハリガネ草を ふやせたんだから きっと、何か 方法がありますじゃい

先生たのんますっ オレにもハリガネ草の午後 味わわさせてくだせいっ

気持ちは わかるけど…

ホレホレホレホレッ

パタタ

すごい

ワシの言う通りすれば、おぬしもこのくらいは出きますぞっ

ホントですかいっ

うめえーのォ

うめえ～のォ

あららっみんな食っちまった。。

ぜんぜん動きませんよ

持てば動くのじゃ

しかし、何かコツというか…方法というか

だからそれはな

ホラ

ホラホフ

すごいでしょうっ

もう いいですよ

ホレホレホレ

もう けっこうです

そうはいかんのよ サザエの食いにげなどと思われてはこまるのじゃ

でも、あんた ただ持って、見せびらかしているだけじゃねえかよ

ホラホラ 持てば動くのです

次の日の昼

ザワ ザワ ザワ ザワ

まもなく一年ぶりのハリガネ草の午後の始まりです

ヒデコシくん おそいですねえ

しょうがないなあ

あっ来ましたよっ

ねぶてえよーっ

もう…けっこうですって言ってんのに

ぜんぜんだめなのさっ

えーっ一晩中やってたのか

それではハリガネ草の葉をもって、草に、ねそべって下さい

さあ、「午後」のはじまりです

こんな感じでいいのですか

ええ

なんだかこのハリガネ草の葉…きのうのと感じが違いますね

ホウ…ツキミ姫はなかなかスルドイじゃす

ハリガネ草はきょうの午後いちばん活動するように植えてあるのです

ああ…ねぶてえよーっ

ら〜っ…ぜんぜん動かねぞ

なんだ、この葉っぱくさってんじゃないの

ねむくて、気持ちがぼやけてるからじゃすよ

みせびらかしたバチじゃす

のどかだなあ…

。。

あれっ

らっ

シュー

ツキミ姫

ぬっ

うあ

ミュッ

テンプラッ

わーっ
みんな
消えちまうのよう

オレも
消えたいよーっ

おやじっ
この葉っぱ
なんなんだっ

おろ

雲が、だんだん集まってくるわ

でっかいモチみたいにかたまっていくぞうっ

らっ

これ…？

雲のピアノじゃす
あれ…
雲と…雲と同化している……
オーホホッすばらしいっ
見てホラ、雲のピアノよ
ホントだ

ふしぎな音色だね

おっ
いい感じっ

えっ

そうか…ヒデヨシ君には聞こえるんじゃすか

あらっ
聞こえないの？

わしも
昔は、聞こえていたんだが…

ああ！
オレも聞きたいなあ…

。。

こんなに近くにいても聞こえない者もいれば
遠くはなれていてもあのピアノの音を感じる者もいるんじゃす
すばらしい…よろこびの音色
この音を聞いていると…なんだかわかってくるね……
えっ…何がですか
ハリガネ草の葉をゆらし……
このステキな音色が聞ける方法…
オレも…なんとなく…
ツキミ姫
どうすればいいんですか
それはね

夢の世界から
けっして降りないことよ

タルダリ大帝Ⅰ

食欲神経

いよいよ海底島ですね

どこだっ銀クジラはどこにいるんだっ

クジラじゃなくてタクマだろう

イエーッ とー着なのよーっ

それでは諸君出発じゃ

待ってヒデヨシくん

この島
変な気配が
するぞ

そういえば、
やけに静かだな…

そーですね

たしかに、生きものの
気配がしませんね…

タクマの奴
どうしたんだろう

とりあえず、
ヒデヨシくんと
テンプラくん
それに私で
様子を見に行こう

よし

海底島と
いうだけあって

木が
昆布みたい
だな

ええ

フフ
貝がらの家だよ
やっぱりだれもいないみたいだぜ
くそっ
どこにいるんだタクマはっ
ドッ
コレッ勝手に入っちゃだめよ
あらん
いいニオイ

なんだ
これ…

すんげえ

ずーっと外まで
続いてるぞーっ

火山の熔岩
でもないし

チカチカ
光ってて…

野原の銀河
みたいだなあ

ザリザリッ

くーっこれ
美味だぜっ

美味!?

お前ねえ そういう正体の わからんものを
安易に なめるなよ
んめのよ
テンプラ
タクマ
元気かっ
ああ ひさしぶり
よう、待ってたぞ ヒデヨシ
ほほう お前が タクマか
…あれっ… まさか… オレをわすれたのか

わすれるもなにも…
お前に会うのは初めてだぜ
まいったなーっ
タクマ君初めまして
私、ツキミ姫です
どーも、はるばる…
いえ
タルダリ大帝が住みついているんだ
しかし、いったいどうしたんだいっ
タルダリ大帝？
ああっ
てごわい奴でな…
それでもう…ヒデヨシの力ならと思ったんだ
オレの力？
うっ

おあっ

これっ

タルダリ大帝だっ

食ってやる
全部食ってやる

うっ

おいっ
あいつの目を
見るなっ

あっ

しまったっ
テンプラ

ありゃりゃ
テンプラが
スミ吹いてるわっ

タクマくん
これはっ
奴の目を見ると
やられるんだ

くっそ〜っ

お前を
食ってやる

うっ

テンプラの
かたきっ

ガブッ

おっ

しめられても
食いついてるぞ

ハグハグ

ガ

うめ～っ

や～っぱ
生きたままは
うんめ～っよォ

全部、全部、全部
食って
あげるかんねっ

ろっ

待てっコノヤロ

けっして
にがさねぞーっ

タクマ、あれが
うわさのヒデヨシか

おおっ
ハン黒

すげえなあ……
タルダリ大帝がにげるなんてはじめてだぜ
ああ…
やっぱりヒデヨシは
タコの天敵だね
…ガチガチに、かたまっていく…
完全につつまれても、けっして死んだりしないけど
もとにもどす法がわからないんだ…
この、野原の銀河みたいなかたまりは…みんな…
ああ…そうなんだ
島民がかなり大帝の目にやられてるんだよ

とにかく
あいつを
たおさない
ことには・

なあ、
お前の相棒
しびれスミのこと
知ってんのか

しびれスミ

ああ大帝の吹くスミは
フグの毒に似てて、吹きかかると
全身がしびれて死ぬんだよ

あの毒なら
ヒデヨシも
あぶないな・

ホホホホ
追いつめたわよう

きれーに
食ってやるぞーっ

オ前、・・オレノ目
見テモ・・・

何モ感ジ
ナイノカ?

タコのくせに口をきくとはなまいきな奴
その口から食ってやるぜい
死ネ
わっ
しびっしびびしびびび
うへへへへっ
ペロロ
うんめ〜っ
このスミうめえよ〜っ
もっと吹けっもーっと吹けっ

ナ・ナンダト・

コラ、タコ野郎もっとスミ吹け

…………

…………

……………

オレノ子分ニナッタラ

タップリ、吹イテヤルゼ……

テンプラのかたきと子分になれだとうっ

てめえっ

ガサ

ガサ

あっいたぞ

だいじょうぶかヒデヨシ

あれ

ヒデヨシ何やってんだ

子分になったのよーっ

タルダリ大帝II

眠りの岸辺

ああ・ノドがかわく

水・・・

水がほしい・・

子分になった!?

そーなのさっ

タクマも子分になんねえか?

なるわけねーだろう

ひさしぶりに会ったというのに…

まったくお前はすさまじい奴だな

ホントホント

こいつのスミはすっさまじい味なのよ~っ

ヒデヨシくん
子分になるのは やめなさい

あんらっ
ツキミ姫 おこってんじゃ ないの？

おこってます

おいタルダリ あの姫は 手ごわいぞ
逃げた方が いいぜ

オレが恐ロシイノハ オ前ダケダ
アンナ小娘 オレガカタヅケル

ツキミ姫 あいつの目を 見るんじゃないぞ

サア……
オレノ目ヲ
見ルンダ
グア
キャ
キャーーッ
あっ
にげたっ
ブチ

パシ
ん？
ツキミ姫って
すごいんだなあ
まったく……
それにひきかえ
あのヒデヨシって奴
ホントにお前の
友達なのか
ああ
最高の友達さ
探したって
なかなか
いないぜ
ねえ…
これから
どうする？

そうだな
パンツや唐あげ丸さんに
会いに行こう

タルダリ大帝って
どうもひっかかるね

ひっかかる?

うん…いくら
知恵があるといっても

あんな
能力を持っているっ
ては………

たしかにタコにしては
恐ろしい奴だよなあ…

あいつを
調べようにも
奴の住み家に近づくのは
むずかしいからな

実は…
ヒデヨシ君のズボンに

これを一個
くっつけたんだよ

んっ? それ
トゲノ実じゃ
ないか?

いい?

だーから
言ったしゃ
ないのよーっ

あっ

ヒデヨシの
声だ

ナンナンタ
アノ恐ロシイ娘ハ

ツキミ姫だよ
強いのよ——っ

アイツハ
テゴワイゾ

そーよ
そーよ

オイ…
ヒデヨシ

アイツヲ
倒ス方法ハ
ナイカ?

ニッフッフッフッ

アルノカ?

スミを吹いたら
教えてやるぞっ

ナンダト…

サッキタップリ
吹イタダロウ

もっと
くれ

もーーっと
くれえええっ

スミヲ吹クト
オレノ体ハヒドク
疲レルンダゼ

あーらら

教えなくても
いいのかなーっ

コイツメ…

ヨシ…

ソレデハ
吹クゾ

タップリ吹いとくれ

んっんっ

あ〜っ うんめ〜っ

ソレデ ドンナ方法 ナンダ？

もう一杯吹いたら 教えてやるよん

ナンダトッ

オ前、教エルッテ 約束シタダロウ

もう一杯 吹いたらねっねっ

なんだか聞くにたえない会話だね
オ前トイウ奴ハ!
恐ろしくもなさけない男だな
あっ
パンツ君
ツキミ姫
タクマ君
ヒデ丸どうしたの?
ツキミ姫たちが出て行ってから少ししたら

大きなタコがおそって来て…

オイラタンスの中にかくれてたすかったんです

なんてことだ…

ああ…水がのみたいな…

あれ

あんた煙草屋、知らないか

いや…

そうか…

どうも……煙草きらしてしまってね…

なんだ、この猫
煙草すってるじゃないか

もしかしたらあんた
オレが煙草すってると思ってんじゃないか？

えっ

ホラごらん

煙は、こいつがはき出す紫酸素なんだよ

そうだったんですか

ところであんたは
何をしてるんだい？

いや…あんまりノドがかわくんで
水を探しているんです
しかし、このあたりに泉なんてないんじゃないか?
でも……さっきから時々、水の流れるような音が聞こえるんです……
空耳じゃないのかな…
オレには何んにも…
待てよ…
そういえば…風にまじって時々
水のニオイがしたような…

水のニオイ
オーイ
あんたたち
そこはとっても…
冷たいよ
え…
冷たい？
そうだ
非常に
冷たい
ドド
おっ
ドドド
雲の向うから…
ドドド
そうか
どうりで…
ドドド

水のニオイがするわけだ…

ドドドドッ

タルダリ大帝III

銀河散歩

水が来るぞ
にげよう
ザー
わっぷ
ああ
なんて
つめたい水だ
もっと

もっと
くれーっ

ヒデヨシくんは
こっちの
方角にいるわ

ふしぎな子
だなあ

どうして
わかるんだろう

スミくれーっ
もっとくれーっ

なんだか
仲間割れ
しそうだね

タコと
ヒデヨシじゃ

仲よくなんて
できないよなあ

そうですね

コフーッ
なんでにげるのさーっ

コレ以上スミヲ吹ケバ
オレハ死ンデシマウ

死んでもいいから吹いてくれえ

ナンテ奴ダ

おりゃ

ニャ～ン

ソノ棒ハ何ンダ

お前の体につっこんで
スミをぜ～んぶ
吸っちゃう棒なのよん
テメエ
サッ
うひゃひゃひゃ
ザクッと
さして
ズズッ
ジャリ
ジャリ

土ナンカ
食ッテ
ウマイカッ

この野郎
生食いだっ
生食いにしてやる

コイツコソ
ケダモノダ…

ナンデオレハ
コンナ奴ト
会ッテシマッタ
ノダ

待てこの野郎

イヤダ
二度ト
会イタクナイ

あら

テンプラだ

おのれ
テンプラの仇
ザッ
ウッ
ズズッ
アア
いたぞ
あらら
仲間割れの真最中
んめよー
ヤメロ
んー
モコモコ
スミのかたまりかしら

んぐ

あれ！

ゴ

ヒデヨシ

あらっ

ヨロロッ
タコの模様が消えていきますよ
これは…!
ああっヒデヨシッ
ウ…
小僧、オレノ名ハタルダリ大帝ダ
ヒデヨシナドトイウ下品ナ名前デハナイ
タルダリ大帝だと!

お前
どうしたんだ
ヒデヨシ君が
何か飲み込んだのよ
飲みこんだ
オレノ
目ヲ見ロ
オレノ目ヲ
見レバ
深イ・ヤミ
ノア・・・
ウアッ 溶ケル
グアーッ
んっ
苦シイ
あらん・・・
なんだか腹が
苦・シ・・・
模様が消えて
いくぞ

フエ…フエッ

フエクショ

アア・溶ケ…

……

これがタルダリ大帝の正体だったのね…

ヒトデの一種か、

こいつがあの大ダコを動かしていたんですかっ

うん…

かなりの能力を持ったヒトデだな…

しかし…それ程のヒトデがどうして簡単に死んでしまったんでしょう

ヒデコシの胃液のせいだよ

ヒデヨシ君の胃液

この腹の中に入っちまったのか

あいつの命とりだね

まあね

あっ

…ふう

わっ

テンプラ君

だいじょうぶか
テンプラ
ああ…
なんだか…オレ
夢を見てたようだぞ
夢を
そばに
猫がいて・
いったい
どこへ流れていくんでしょう
ヒデ丸
行き先よりも
なめるのよっ
これ美味なのよっ
すれでは
さっそく

なんだ！

どうしたヒデヨシ

さあ　さあ

そして3日後

これが、島をさわがせたタルダリの正体だよーっ

1回、さわってたったの銅貨3枚

・だーれもよって来ませんね

うーむむ

おいそこのオヤジ

タルダリいかが？

そのヒトデならきのう見たじゃないか

タルダリは一度見ればもういいが
この道だけは何度も歩きたいね
これだけスミが集まってくるとは
島の連中はずいぶんタルダリにやられたんだなあ
そうですねえ
でも島民を苦しめたけど…
ステキな所を残したね
ホント
この　銀河を歩けば
オノ
これがっ
星のない夜でも
雨の降る夕ぐれでも
この道を歩く者には

テンプラたちの見た夢が
見えるのです

PARERBACK WRITER

ぐ〜っ
固てえ
地熱サンゴは牙石で
ぶったたくしか
手がないんだ
しかし、すごい
繁殖力だな
日差しが強くなったら
ワサワサ
出てくるんだもんな
夏がすぎるまでの
しんぼうだけど…
ほっておくと、家なんか
しめこわされるんだぜ

この飛行船も…
こんなにからまれないうちに
少し動かしておけば
よかったのに……

操従士が
行方不明なんだよ

操従士って
ヒデヨシか?

ああ

もう4日も
帰ってこないんだ

博士!
いかがですか

オオ
乗ってる

わっしゃあ
乗ってるぞ

「それから……
生イカ大王は」

「満月の光が…
ドンブリのように
あふれ落ちる中…」

生ウニ頭巾の・
ぬっちゃりとした頭を」

ガギッ

「チュルチュルチュルチュル
うまそうに、うまそうに
うまあそうに……」
「食った」

…終った…

脱稿じゃ
脱稿したぞっ

やりました
ねっ

うほほほ

ヒデ丸、あとは
たのんだぞ

まかせて
下さい

ガシッ

くそっ

ガッ

あらん
諸君、
どうしたの？

ミシッ

のやろう

見たとうりの地熱サンゴだよ

ちねつさんご？

あんた、いい体してるな、手つだってくれないか

ホホホホホ

おことわりじゃ

島の連中は、夏中、あのサンゴと戦うわけか…

大変だよねえ……

あれは、体温や、話声に反応するらしいぞ

体温や話声に！

ああ、けっこう知的な奴らしくてさ、
会話の内容によって、成長速度が違ってくるんだってよ
それじゃ、あんまりサンゴがからんでない家っては・・・・・
その家の連中がつまんない会話をしてるってことらしいぞ・・・
なんだか、ありがたくないサンゴだねえ・・・・・
役にたたないサンゴもいれば・・
オイラのように
役に立つ翻訳家もいるのです
まったく・・・これを読めるなんて・・・
大変な才能だぞ

私にはただのデタラメな線にしか…見えませんなあ…
有名な、スミレ文字じゃよ
唐あげ君も覚えればきっと役立ちますぞ
ヒデヨシ、そんなにたくさん原稿かいて……
……まさかお前！
そうよっ出版社に持ちこむのさっ
2日程たって……
諸君、今夜は出版記念宴会じゃぞ
宴会できるかなあ
どうせ残念会だろう
残念会でも盛り上っちゃうもんねえ

(マキ貝出版)

(新作まってるぜ)

がんばって下さい

オウ

ワシはこういう者じゃ

アタゴオル 博物学博士
超天文学・野原文学博士
ホシノミヤ・スミレ
ヨネザアド
アタゴオル

ほほう…

それで今まで出版された著書は？

「あつい体を涼しくする呪文集」「春夏秋冬タコばやし」そして「ピンピン髭のサンバ」

これらはアタゴオルの3大名著と呼ばれてますのじゃ

そうですか……

では、さっそく読ませて下さい

海底小説
「生イカ大王の腹くらべ」
大王はムズとつかまえた赤エビを食いながら、ウニが食いたくなって、ああ「ウニ食いてえ」とつぶやいた」

いい始まりじゃろ

「そこで通りがかりのサザエを食ってから…」

……

パララッ

お返しします

は？

うちでは、出版は無理です

一度さわった原稿は出版してもらうのじゃ

それじゃよろしく

ちょっと持ってって下さい

バン

なんて男だ…

親方、裏の方にも
地熱サンゴが
はえてきてます

ロクなこと
ないなあ

オッ
持ち込み
原稿ですか

最底だよ

イヤシサだけで
書きまくった
とんでもないクズだ

まったく
こんなものを
他者に見せる
神経が恐しい…

そんなに
ヒドイんですか…

ホントかっ

「生ウニ頭巾は、
うらぎったイソギンチャクの
腰骨をツンツカつつき
ながら、う〜っ笑った
のじゃ…ね、」

くーっ
聞いてると
気分が…
あっあああっ

とりあえず300冊ということでおねがいします

そんなに

何かのまちがいでは！

出版社がかたむきますよ

それじゃあ発売は3日後ということで…

ホホホ

3日後

ミーン

ワシの文学がついに王道を歩く時が来たのじゃ

売り切れた

ああ、あっという間に20冊！

みんな血相変えて買っていったぜ

いったいどうしたんだろう

生イカ大王の話はスバラシイからなあ…

スミレ博士の本やっと手に入れたぞ

オオッすごいっ

あれっ

えーっそれでは……

始まり…は……と……

それ、どっから読んでもいいんだよ

そうか

がまんして読むんだ

「スルメの井戸は細い細い、それは細い足を」

なんじゃと…？

「くずれた生イカ大王の家はポロロロと海水の中でわたしはウニが食いたいとのたまうスルメ」

……うう

「ムッチャラ、ムッチャラとのばしていく道よ」
ボコ
おっ
ボコッ
ああ
地熱サンゴがっ……
「それからあれから」
やった
くずれたぞ
そうかっ これが……目的だったのかっ
何よっ 何んなのじゃ?
地熱サンゴは、知的な会話で成長する性質だろう…

そんな知的なサンゴには
お前の文章は、あまりに
たえきれないものだったのさ

少年よっ

ワシの
作品は

サンゴが理解するには
あまりにも深いのじゃ

本は日ごと
売れ続けた…

ウフフフッ
……

自分の本ながめて
笑ってる

スミレ博士

オオ
どうした
スリザ君

また
再版かね

いや、絶版です

絶版

先生の本が効かなくなったんです

きかなくなった…

サンゴの奴、文章になれてきたらしくて

もうききめがないんですよ

効果のなくなった博士の本は野原に大量に集められ

ゴミといっしょに燃やされた

そして、その、もうもうたる煙を背にしながら

スミレ博士は

第2弾の執筆に
とりかかっていた

のってきたぞっ

夏の思い出

ああ、腹へってねむれねえ
おう
なんだコラ…
うーっ……しびれるニオイ
モグ
いただきましゅる
モグ
次の日
ザーーッ

うりゃっ
ザーッ
空飛ぶ毛だらけトド
ドボッ
ふはーっ
いい気持ち
オーイ
氷ができたぞーっ
わおーっ

ショコ

ふーっ
冷たいわ

しみるねえ

海に入ったり、
かき氷食べてる
間は、涼しいけど
……

ほんとに
毎日毎日
暑いよなあ

アタゴオルの夏も
暑いけどよーっ
この島の夏は

火のついた
ナベの中にいるみたい
だもんなあーっ

しかし、こんなに暑いのに
今日は、島の連中、
だれも泳いでないねえ

お客さん、そりゃあツボサンゴが楽しみだからだよ

ツボサンゴ!?

ああ、きょうの夕方サンゴを開くんだ

あのサンゴが楽しみでみんな海にも入らず冷たいものも飲まず待っているんだよ

ホエ?

お客さんも、夕方になったら行ってごらんなよ

ようし

ところで親父タルダリ大帝って大ダコ知ってるか

ああっもちろんさ

あれを島から追っぱらったのはオレなんだよ

えっ あんたがっ

そう

だから このかき氷タダにしてくれる？

えっ

しっかしケチだよなあ あの親父

かき氷タダ食いしようって方が問題なんだよ

なあ、ヒデヨシ…

お前どうも…ハッカのニオイがするぞ

ハッカ？

ああ！何か食ったんじゃないか？

きのうの夜中
どっかに出かけてた
みたいだし…

別になにも
食ってないよ

おっ、いたぞーっ

あいつだ
あいつ

ん？

お前だろう
ハッカ昆布を
食ったのは！

ハテ？
何んのことかしら

サンゴ原の
ツボサンゴにまき
つけておいた
昆布だよ

お前が食うのを
見たって奴がいるんだぞ

くっくっ

この島を
タルダリ帝王から
助けてあげた
親切な私に…

ブル
ブル

いわば この島をすくった 命の恩猫と 申すべき私に…

そのような ぬれぎぬを ぶっかけるとは…

うう

しく しく

泣きまねをしても だめだよ

君が来てから 魚屋ドロボウは 始まるし、

鯨工場の壁に 穴があいたり してるんだぜ

タルダリ大帝の 方が、ましだって 言ってる奴も いるんだぞ

らっ

まったく ハッカ昆布食われて しまって…サンゴ開きは 中止になるしっ!

中止なん ですか!?

ああ、ハッカ昆布はこの島じゃ一年に何枚も生えないんだよ
しかし、あんな昆布食ったんじゃ死んでしまうぜ…
物食って死ぬような男じゃないな
シュッ
！
ら
シュ
うっ
発酵してきたぞっ
これはっ使えるぜ
使える？
ウエーッ気持ち悪いのよーっ

すごい気体だなあ…

まったく……ノ

変なもの食うからだよ…

早く始めろーっ

そーだっ

ガヤ

ガヤ

しかし…暑いねえ

フフッ、今年はたっぷりと考えてきたからなあ…

多ければいいってもんじゃないんだよ

コフ、早く始めろっ

おまたせしました、ただいまより「ツボサンゴ開き」を始めます。

気持ち悪ううぃっ

この暑い夕ぐれの中今年はいったい誰がなりますのか!?

それでは始めたまえ

おりゃ

ブチッ

キャーッ
すげえ
ボ
ギャ
わおう
ザ

さあみなさん拾って下さい
オレ大きい奴がいいな
大きさは関係ないんだよ
何んだろうこれ?
ツボサンゴの中身だよ
これを…こうやって耳にあて……
…たとえば…夏の風物を想うんだよ
ふう…やっと煙が吹かなくなったわ
あらん…何やってんだ?
夕焼け花火・・

そうやって…夏というと想い出すものを考えるんだよ

そうねえ 夏と言えば

風鈴…

くさった タマネギ

ハアッ

君はそんなものを想い出すのかい

そうねっ プンプンするやつ

とっとにかく叫んでくれたまえ

じっとだまって想うのじゃ

くさった イチゴ

なんだか だめみたい だなあ

オレも・・

せっかくいろいろ考えて来たのになあ・・

しかし、ことしはだれなんだろうな

まったく・・

おっ

あの子だっ

始まったぞ

みんなっ耳から石をはなすなよっ

うあ
うっ
涼しいーっ
ああ。
ツボサンゴがよみがえらせる太古の海底の涼しさなんだよ…
うーっ冷えびえ
ほんとに…涼しいねえ…
みんなはこれを味わいたくて海に入らずにいたのかあ
でも…どうしてツキミ姫から吹き出してきたんだろう?
それはだねえ
サンゴのカケラを耳にあてた者の中であの子が一番深く

夏を感じていたからさ…

●『アタゴオル玉手箱』は、月刊ＭＯＥ（偕成社／５００円／メルヘン＆イメージアートの専門誌）に大好評連載中です。

●ファンタジーコミック誌『コミック・モエ』（偕成社／４８０円）誌上にて、ますむらひろし作『ヘンギン草紙』の連載が開始しました。また同誌上では、ＭＯＥコミック大賞他を設け、作品公募を行っています。

初出

＊P.13～142／月刊MOE（偕成社）
'87年3月号～'87年10月号
P.1～7／王様手帳（アド・サークル）
P.8／獅子王（朝日ソノラマ）

アタゴオル玉手箱――4

発行　一九八七年十二月　一刷

作者　ますむら　ひろし
発行者　茂木恭輔
発行所　（株）ケイエス企画
〒162東京都新宿区市ヶ谷砂土原町3―5
電話（〇三）二六〇―三二三〇
発売所　（株）偕成社
〒162東京都新宿区市ヶ谷砂土原町3―5
電話（〇三）二六〇―三二二一
印刷　大日本印刷（株）
製本　文勇堂製本
144p. ISBN4-03-014120-X C0093

Published by KS Planning, Printed in Japan.
定価はカバーに表示してあります。